

たまねぎ

抗酸化作用があり保存性に優れたたまねぎは、生のままサラダや炒め物、煮物、揚げ物など色々な料理に使えます。

11月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

作型

植え傷みさせると枯れやすいので、丁寧に植える。大苗で越冬させると、とう立ちしやすい。酸性土壌に弱いので、石灰を必ず施用する。

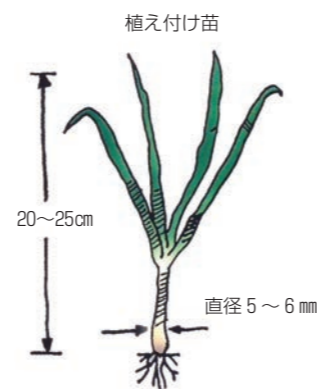
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋まき貯蔵					■	■					△		もみじ、さつき、ターボ レッドオニオン、ニューセブン

△：植え付け ■：収穫

畑の準備・播種

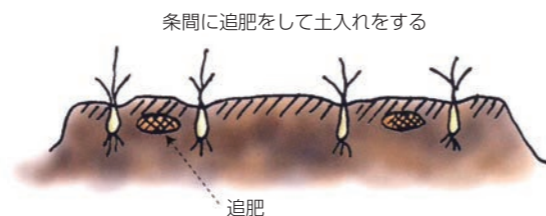
土づくり aあたり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 aあたり	
醗酵鶏糞	30kg
畝立時施用	

- 4条植え：畝幅120~150cm 条間20~25cm 株間10~12cm
- 葉の分岐点が埋まらないようにする。
- 深植えにならないよう、深さ2~3cm程度に植え付ける。



追肥

- 1月下旬~2月上旬：追肥し、中耕を行う。
- 2月下旬~3月中旬：追肥し、中耕を行う。
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5~7kg/a)
- 病気を防ぐため、3月下旬以降は追肥しない。



防除

病害虫	耕種防除	薬剤防除
べと病	排水をよくする	プロポーズ顆粒水和剤 1000倍 7日前まで 3回
白色疫病		
灰色かび病		
灰色腐敗病	つり玉中の通風をよくする	トップジンM水和剤 500~1000倍 前日まで 6回

収穫

- 全体の50~80%が倒伏したら行う。
- 3~5日晴天が続いた後に抜き取り、半日から1日畝上で天日干しを行い、風通しの良い日陰につるして貯蔵する。



裏面はキャベツを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.295 平成27年11月9日発行

キャベツ

葉の巻が緩やかで柔らかな、春に収穫される新キャベツ。サラダなどの生食の他、炒め物やお漬物でもどうぞ。

11月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

作型

定植が早まると年内の生育が進み過ぎ、とう立ちして大きな玉にならない。冬の寒さと乾燥に弱いので、根は深く張らせる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春どり					■	■	■	■			△		SE・春ひかり

△：植え付け ■：収穫

畑の準備・播種

土づくり aあたり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
元肥 aあたり	
醗酵鶏糞	30kg

- 2条千鳥植え：畝幅120cm
- 株間30~40cm (条間40~45cm)



追肥・土寄せ

- 定植後30日頃：追肥後、軽く土寄せを行う。
- 結球開始時期：追肥する。
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料7kg/a)



防除

病害虫	耕種防除	薬剤防除
コナガ	幼虫を捕殺 防虫網を張る 早期に発見し捕殺する	トレボン乳剤 1000~2000倍 3日前まで 3回
アオムシ		
ヨトウムシ		

収穫

- 手で押さえてみて、固くなっているものから収穫する。
- 長い間畑に放置すると、裂球やとう立ちする。
- 先がとがってきたら、とう立ちする株である。(植え付けてから2ヶ月くらい)

裏面はたまねぎを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.295 平成27年11月9日発行